

研修医・指導医リレーエッセー⑫



“あめ”
汗ニモマケズ

水島中央病院 初期研修医 鎌田 顯世^{けんせい}

水島中央病院初期研修医2年目、香川県生まれ愛光育ち、岡山大学卒の鎌田顯世です。この度は貴重な機会を頂き誠に光栄です。水島中央病院の研修医として1年と少しを振り返りつつ、リレーエッセーを綴らせていただきます。

まず初めに、2年間の研修生活では、医師として慣れないことだらけの中、時には仲間たちと慰め切磋琢磨しあい成長していくと思います。過去のリレーエッセーでは、“不安だらけの新社会生活だがプライベートでも仲の良い同期たちにも恵まれ充実している”(岡山県医師会報1647号より一部引用)などの報告もあります。特に当院は初期研修医の定員が2名と狭き門であり、皆様が想像される通り、ペアとなる同期が非常に重要という風に理解し、研修生活に臨みましたところ、同期はいませんでした。といった背景で、2年目にはいるものの晴れて当院の症例を独り占めることになった私はとにかく上級医の方々に積極的に接していき、色々な経験をさせてもらえるように意識しました。当院は、指導医のもと研修医が主となり内科外来を行うことができるのが大きな特徴で、病院自体が地域に根付いており、新鮮な症例が経験できることが非常におもしろいです。最初の方は、ドヤ顔で急性腸炎と診断したものの処方にて戸惑っていましたし、マックバーニーの圧痛に感動し、そんな痛がるんや尿路結石と思いました。外来で診断をつけた症例をそのまま病棟で、担当医として診療に携われることは非常に勉強になりました。

また、救急の経験を多くしたい自分にとって救急外来へのアクセスがよいことは有り難く、救急医のマンツーマン指導のもと自分が主体となって診療ができ、良い経験を得られました。実際に動かないと分からないことが多いと思います。



ともに成長できる仲間たち(手前が筆者)

同期がいなかったなので、右にならえが出来なかった医師1年目の始めはとにかく、分からないことだらけで先輩や専攻医、時には外勤の先生にも絡みつつ体当たりしていましたが、私の手綱を握りつつ指導していただきありがとうございます。今は、自分に何が足りないかがようやく少しずつ分かってきたかなと思います。やりがいがあり、責任を感じつつ学んでいます。

また、なんと現在は同期、後輩に恵まれています！症例検討などの取り組みもあり楽しいです。去年も去年で楽しかったですが、飲み会の数には有意差があると思います。後輩の教育をちゃんとできるように私自身がしっかりすることは大事だと感じています。

私は、消化器内科を志望として考えており、救急などにも興味がありますが、専門性にフォーカスを置きつつも、研修医のうちにしか経験できないことも意識して残りの研修医生活をやり遂げたいと思います。

結論になりますが、入職時には同期0だったが現在は同期や先輩後輩に恵まれた一例について紹介させて頂きました。体当たりで臨んだ1年目ですが、外来、病棟、救急、医局など冷や汗をかかなかった場所はありませんが、一步ずつ前進して行くと信じてやるしかありません。もう一年頑張ります。

✧——— 水島中央病院 ———✧

下の写真は、岡山県医師会主催の令和7年度「WELCOME研修医の会」に参加された水島中央病院の研修医と松尾龍一病院長（中央）。



※令和7年度「WELCOME研修医の会」の当日写真については、

• <https://www.okayama.med.or.jp/doctors/welcome.html>

• または、

